

映画を観光に



日浦のロケ地、
近藤さんの校園
から

映画「陽光桜」とは

この映画は、私財を投げ打ち、約30年かけて新品種の桜「陽光」を誕生させ、2001年に九十二歳で亡くなるまで、陽光桜を世界中に無償で配布、世界各国で植樹を指導し、その生涯を平和活動に捧げた、郷土愛媛県東温市東谷地区の人、高岡正明さんを描いた実話に基づく物語だ。

大手映画会社や全国放送のテレビ局といった宣伝もなく、個人の人の力によって作られた



狩場地区、満開の陽光桜



穂田琉ファーム代表
河之内区長
坂本 憲俊 (東温市)

愛媛のメインロケ地となった。

映画が、昨年9月の愛媛での封切り後、徐々に全国で上映され、今なお上映館が広がっているのは、もちろん高岡さんの人柄と偉業に負うところが大きいですが、愛媛の農山村の美しい風景がその背景にあり、両者相まって映画を見た人々の間で話題が話題を呼び、感動を伝えているからにはかならないだろう。

映画と地域の関わりは、昨年映画制作の始まる前、プロデューサーが地域を訪れた時から始まった。愛媛ロケが、河之内や東谷で行われることを知り、撮影ポイントにふさわしい場所を半日かけて案内したのだ。その結果、公開された映画を見て確認したところでは、少なくとも東谷校区内の7カ所でロケが行われた。

「東谷小学校」、「雨滝」、「狩場 熊谷さんの梅畑」、「日浦の棚田と集落」、「問屋の白猪屋さん付近」、「問屋の棚田」、「日浦 近藤さんの桜・アジサイ園」。いわば映画のメインロケ地となった。

あの一枚の写真から始まった

4年前、地域の桜を写真撮影していた、川の対岸から見て感動し夢中でシャッターを切った近藤さん宅の桜・アジサイ園。

「あの一枚の写真からはじまったんじ

やなあ。まさかこんなことになるとは！」と近藤さん。

十数年前養父亡き後、農地の所在も分からず困っていた近藤さん家族は、その後陽光桜を始めとする桜やアジサイの楽園を作っていたのだ。

近藤さんは、4年前に差し上げた写真を今でも座敷に大切に飾っている。

近藤さんの風景は十数年前に苗木を植え、長年をかけて育ち、一枚の写真や映画によって花を咲かせたのかも知れない。

すごい風景があるじゃないですか。

主演の笹野高史さんに、「セットじゃないですか！」と言わしめた「狩場の熊谷さんの梅畑」。

昨年2月、所用で熊谷さんを訪ね、それまで倉庫の裏にあり知られることがなかった谷あいの段々畑。風景のあまりの見事さに「これは観光名所になりますね」とお話しした。ひと月後、桜を植える場面のロケ地を探していたプロデューサーを案内し、ご本人もいて即決でロケ地と



河之内観光マップ

住民がエキストラに



なった。
住民がエキストラに

高岡氏の葬儀の撮影シーン。普段は訪れる人もほとんどない山里は、監督、スタッフの声が響く中、地元住民など100人近くの真剣な顔のエキストラで熱気にあふれていた。

また、東谷小学校での撮影シーンでは、前に参加出来なかった子どもたちもエキストラとして参加、いい思い出になった。

白猪の滝まつりで、フェイスブックで

映画の封切りが迫る11月3日は、数千人の人々が訪れる白猪の滝まつり。

撮影シーン写真や撮影便り、ポスターを掲示し、チラシを配布、前売りチケットを販売、大きな手応えを感じた。また、ロケが決定してからフェイスブックページ「美しい里山河之内」で逐次映画情報公開した。以来、ページの投稿を見た人は、延べ数万人に上る。

映画が上映された

9月、全国に先がけて愛媛から映画が封切りされた松山市の映画館は、場内階段まで客であふれ、立ち見が出るほどの

盛況となった。名優たちが熱演するさげない人々の暮らしと平和への思い。

プロローグとなるいきなりの葬儀参列シーンでは、ロケ地を提供した近藤さん御夫妻が大写しになり、地域エキストラたちが続く。あの人もこの人も、子どもたちも名演技だ。

東谷、河之内の風景が映し出される。エンドロールでは、映画史上かつてなかったと言われる数百人のサポーター、エキストラ、協力者などの名前が刻まれた。そう、この映画は皆で作ったのだ。

皆さんから感動の声

映画を見た方々から次々と感動の言葉が伝えられる。棚田シーンの字幕に「愛媛県川内町」と出た瞬間に涙が出たという人まで。もちろん、エキストラ出演者や地域の人々と感動を分かち合った。

風景には物語がある

映画の愛媛ロケは、わずか2週間で県内各所で行われた。監督の話では、諸事情により映画の制作続行さえも危ぶまれた時期も何回もあり、奇跡的に完成を見た映画であつたようだ。

ともあれ、地域の美しい風景を世界へ発信することができた。私たちにとって大事なのは地域が映画のロケ地として選ばれる条件を備えていたということであ

り、その風景は地域の人々がつくり守ってきた物語にほかならない。

地域の人々が映画制作に関わり、あるいは映画を見ることによってさらなる地域への誇りと愛着を深めることができたのであれば、この上ない成果と言えるだろう。

これが観光だ

折しも、今年2月「河之内集落活性化ビジョン」と「河之内観光マップ」が作られた。観光マップは、河之内の美しい見所、撮影ポイントなどを入れたオンラインのマップだ。当然のように、「陽光桜ロケ地」7箇所も入っている。

地域観光は地域づくりそのもの。何に「光を観る」のか、光を当てるのかという視点が重要だ。この映画は、桜に世界平和への願いを託した高岡正明氏の生涯を綴った物語である。その崇高な生き方を、ちゃっかり地域づくり、地域観光に使わせていた

だこうなんて魂胆を高岡さんも天から見透かしているかもしれないが、あつけられなかった天才、きつと笑って許してくれることだろう。



狩場の熊谷さんの畑でロケ